

人間関係学科 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

文学部人間関係学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するために、以下のとおり教育課程を編成し、実施します。

教育課程の編成

（編成の方針）

- 1 人間関係学科では、1年次から4年にかけて人間関係及び人間と社会や自然との関係に関する知識や理念、概念、法則及び必要な調査・分析のスキルを修得するとともに、人間関係の諸課題に問題意識を持ち続け、人間関係及び人間と社会や自然との関係を理解し、実践につなげる姿勢を身につけることを目指して、順次性、体系性のある教育課程を編成する。
- 2 教育課程には、人間関係の様々な事象に総合的、論理的に考察し、コミュニケーション力を育成しつつ、自身の考えや判断を表現できるよう、1年次の人間関係学演習から4年次の卒業論文に至るまで演習・卒論科目を配置する。
- 3 以上の専門教育科目に加え、社会で生きていくための基盤力を育成する基盤教育科目をもって人間関係学科の教育課程を編成する。

（教育課程の構成）

※()は卒業に必要な最低単位数で、卒業要件単位数 124 単位の内訳

人間関係学科の教育課程は、編成の方針に基づき、専門教育科目(84)と基盤教育科目(40)で構成する。

専門教育科目は、「概論科目」「実験実習科目」「選択科目」「演習・卒論科目」の4つの科目群から成り、順次的、体系的に編成する。各科目群の編成は次のとおりとする。

- 1)「概論科目」(12)は、人間関係の諸原理を解明するための基礎的な知識や概念、法則について学ぶための基礎となる専門教育基礎科目群であり、1年次に配置する。
- 2)「実験実習科目」(2)は、人間関係の諸原理の解明に関し、必要な調査や実験を実施するための基礎的な方法論をはじめ、資料やデータを分析して結論を導くための技能や、様々な事象に対し総合的、論理的に考察する力を育成するため、2年次から順次履修できるように授業科目を配置する。
- 3)「選択科目」は、人間関係の諸原理を解明するための基礎的な知識や概念、法則について理解するため、主に2年次に専門的な知識と方法論を学修できるよう授業科目を配置する。
- 4)「演習・卒論科目」(18)は、多様な考えを持つ他者と包括的な議論を行いながら協働し、人間関係の諸課題について問題意識を持ち続け、実践する能力の修得を目的として、1年次から配置する。

教育の内容・方法

- ・ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。
- ・ 学生が主体的に学び、協働して課題解決に取り組むとともに、学習意欲・関心を高め、生涯にわたって学び続ける力を養うため、課題解決型学習(PBL)、グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークなど能動的学習(アクティブ・ラーニング)の手法を授業形態に応じて効果的に取り入れる。
- ・ コミュニケーション力と自律的行動力を育成する「人間関係学演習 A、B」では、他学年学生との交流や卒業後の社会とのかかわりについて学修することを通してキャリア意識を醸成する。
- ・ 予習・復習等、授業時間外の学修について、学修行動調査などによる調査・把握を行いながら、シラバスへの内容記載や授業での喚起等により、適切な学修時間の確保を促す。
- ・ 単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限を各学期 26 単位とする。

学修成果の評価

- ・ 授業科目の成績評価は、試験、受講態度、並びにレポートや課題、ディスカッション、プレゼンテーションへの取組状況や成果などによって厳格に判定する。成績が一定の水準に達したと認められた場合に、所定の単位を認定する。
- ・ 3年次に進級するためには、2年次終了までにおいて、所定の科目を含めた 54 単位、卒業の要件は、所定の科目を含めた 124 単位以上の修得を必要とする。
- ・ 各授業科目の成績を基礎とした総合的な学業成績として、累積 GPA を算出し、成績優秀者表彰や早期卒業、留学対象者の選定などに用い、学修意欲の向上を図る。
- ・ 学生への授業評価・学修行動調査等を実施し、個別科目での学生の理解度や各講義・授業への要望をはじめ、学修達成状況などを把握し、その結果を授業や教育課程の改善に役立てる。